資 料 編

１．統計調査から見える地域課題（第２章）　・・・２１

２．いきいきプラン推進委員名簿　・・・３５

３．いきいきプラン第２期実施計画作業委員名簿　・・・３６

４．第３次中野区民地域福祉活動計画
第２期実施計画策定の経緯　・・・３７

５．第５回なかの地域福祉推進フォーラム報告　・・・３９

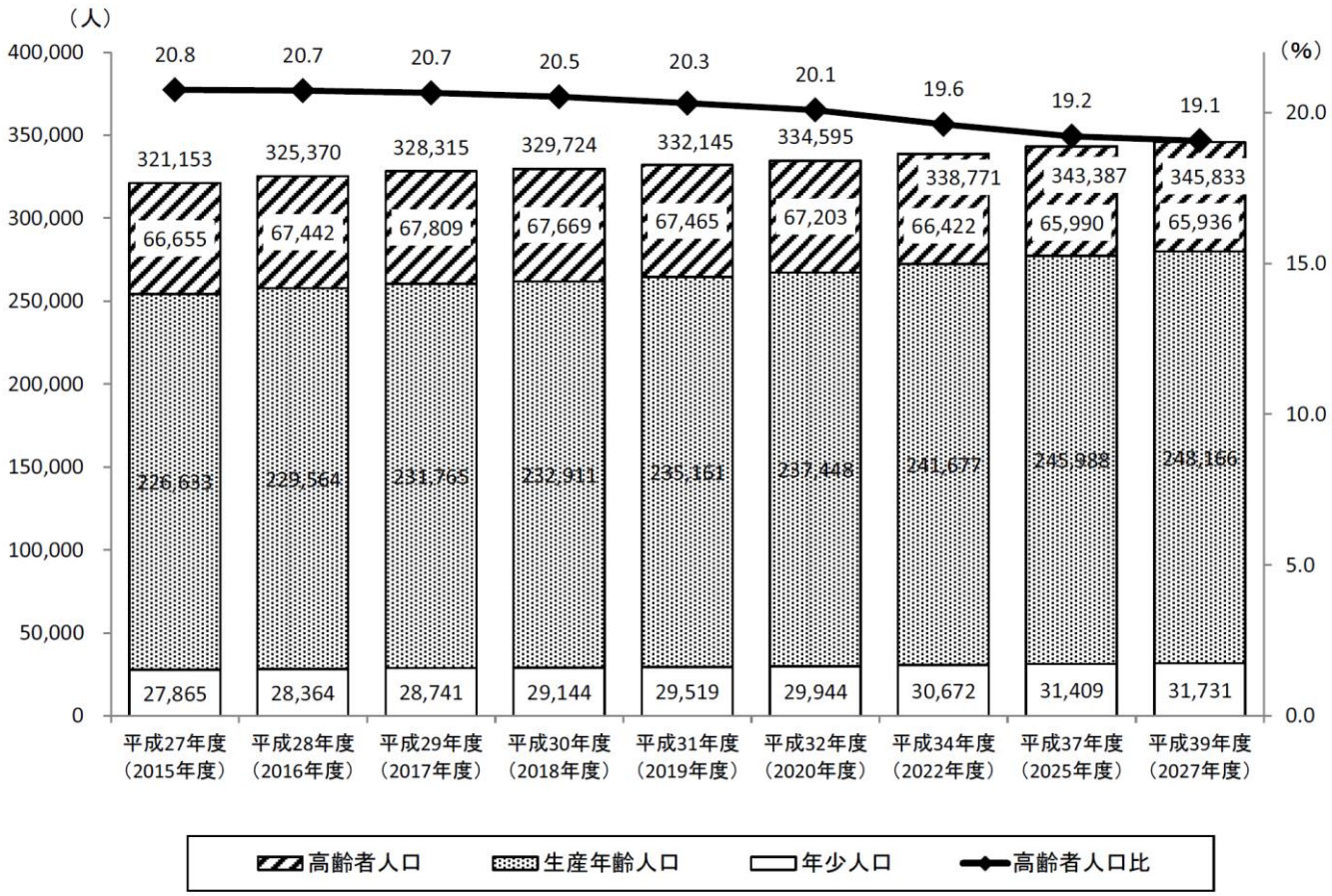
６．用語説明　・・・４１

１．統計調査から見える地域課題（第２章）

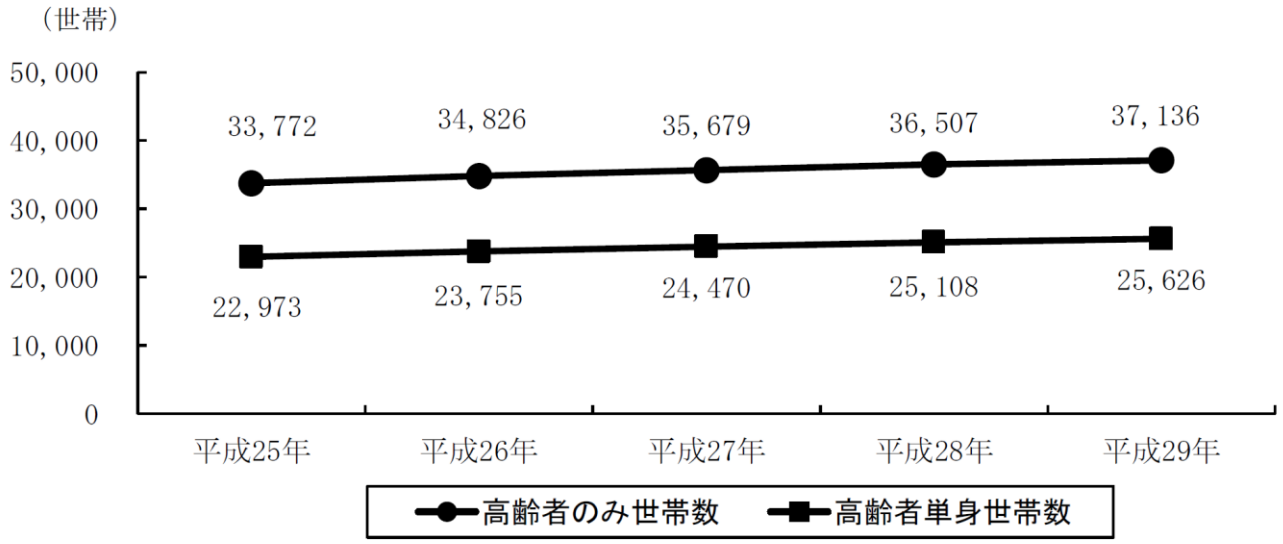
（１）中野区の人口・世帯の傾向

中野区を取り巻く状況（中野区健康福祉総合推進計画より）

①　人口の推移と予測



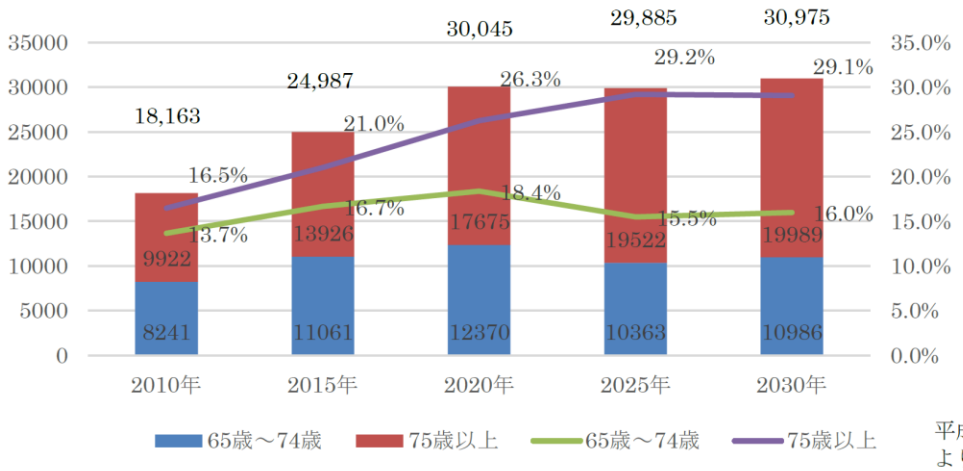
②　高齢者世帯の推移



出典：保健福祉に関する基礎データ（各年４月１日）

③ 中野区の一人暮らし高齢者の推移（人）

中野区のひとり暮らし高齢者の推移（人）



平成22年（2010年)国勢調査より作成、以降推計

④ 将来世帯推計

32. 将来世帯推計(2030年まで)					
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
一般世帯数(世帯)	**175,029**	**189,035**	**198,253**	**193,941**	**188,782**
(内訳)					
単独世帯数	105,029	115,931	125,738	122,757	119,094
	60.0%	61.3%	63.4%	63.3%	63.1%
夫婦のみの世帯数	23,741	27,605	28,669	28,400	28,173
	13.6%	14.6%	14.5%	14.6%	14.9%
その他の世帯数	46,259	45,498	43,845	42,784	41,516
	26.4%	24.1%	22.1%	22.1%	22.0%
人口(人)	314,750	310,336	306,438	299,864	291,723
一世帯当たり人員数(人)	1.80	1.64	1.55	1.55	1.55
注） 2010年10月1日現在の国勢調査世帯数を基準として，プロペンシティ法により算出					
%は全体に対する割合					
人口も推計値(コーホートシェア延長法により算出)					
資料 企画分野					

（中野区統計書 2017 より）

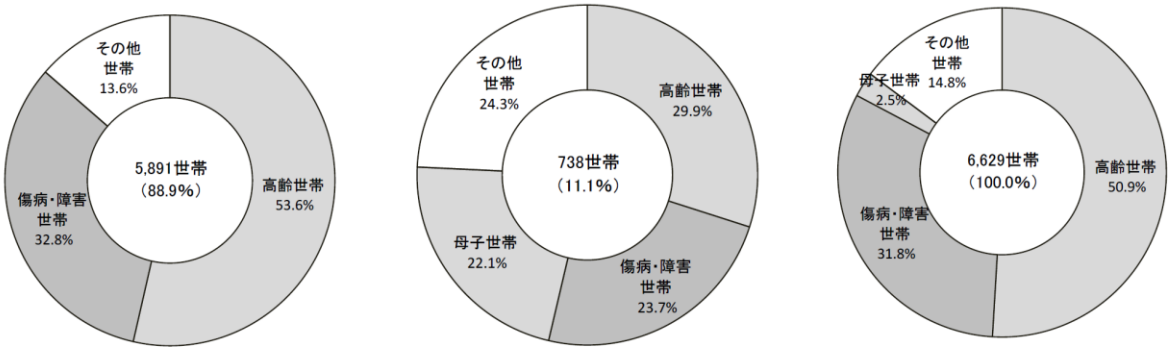
（２）中野区の生活保護の現状（なるほど！中野区の健康福祉 2018 年版より）

① 世帯類型別被保護者世帯数

表 23　世帯類型別被保護世帯数

区　分	年　　度	26	27	28
単身者世帯	高齢世帯	2, 910	3, 065	3, 156
	傷病・障害世帯	1, 943	1, 926	1, 933
	その他世帯	925	875	802
	小　　計	5, 778	5, 866	5, 891
二人以上の世帯	高齢世帯	219	211	221
	傷病・障害世帯	169	177	175
	母子世帯	204	185	163
	その他世帯	196	181	179
	小　　計	788	754	738
	合　　計	6, 566	6, 620	6, 629

※各年度とも月平均



(a)　　(b)　　(c)

図 30　平成 28 年度の世帯類型割合　(a)単身世帯の構成　(b)二人以上の世帯　(c)世帯の構成（合算）

② 年代別受給者数の推移

平成29（2017）年1月と平成25（2013）年1月との比較では、80歳代（1.29倍）、50歳代（1.14倍）、の増加率が高く、19歳以下（0.78倍）の減少率が高くなっています。前年度との比較では、80歳代（1.08倍）、40歳代（1.02倍）の増加率が高くなっています（表24）。

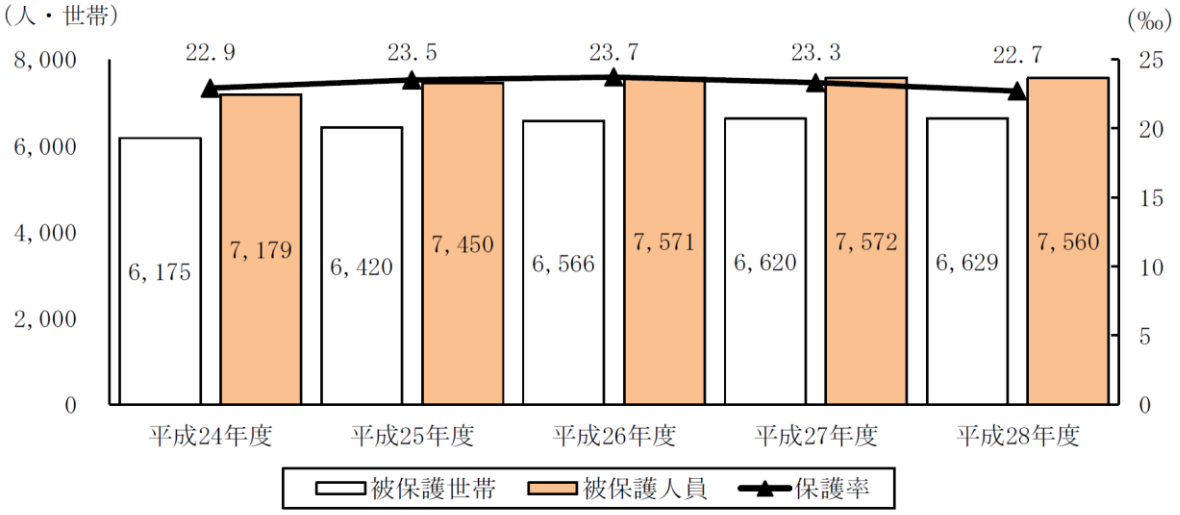
表 24　年代別受給者数の推移（各年１月時点）

年	25	26	27	28	29
80歳以上	833	869	905	1, 002	1, 079
70歳代	1, 656	1, 699	1, 765	1, 741	1, 770
60歳代	1, 773	1, 800	1, 788	1, 747	1, 714
50歳代	928	997	1, 036	1, 057	1, 057
40歳代	868	896	913	915	934
30歳代	528	537	522	500	461
20歳代	166	170	168	147	136
19歳以下	428	429	381	340	333

③ 生活保護の被保護世帯数・被保護人員及び保護率

平成 28 年度の中野区の被保護世帯は月平均 6,629 世帯、被保護人員は 7,560 人、保護率は 22.7‰（人口 1,000 人に対する被保護人員の割合）となっています。

平成 21 年以降増加していた保護率は減少に転じています。



出典：平成 29 年（2017 年）版　中野区健康福祉部事業概要

（３）地域に対する中野区民の意識について

（２０１７（平成２９年度）健康福祉に関する意識調査より）

① 地域活動について

◆参加する地域活動の中で、最も多いのは「町内会・自治会の活動」

問１．あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

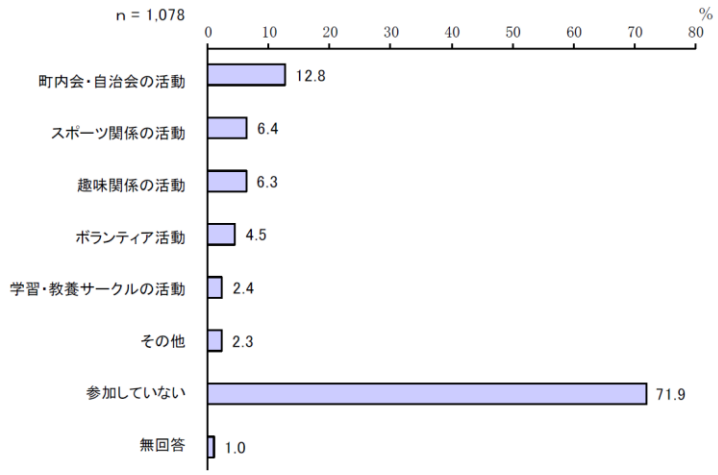


図 1-1　参加している地域活動

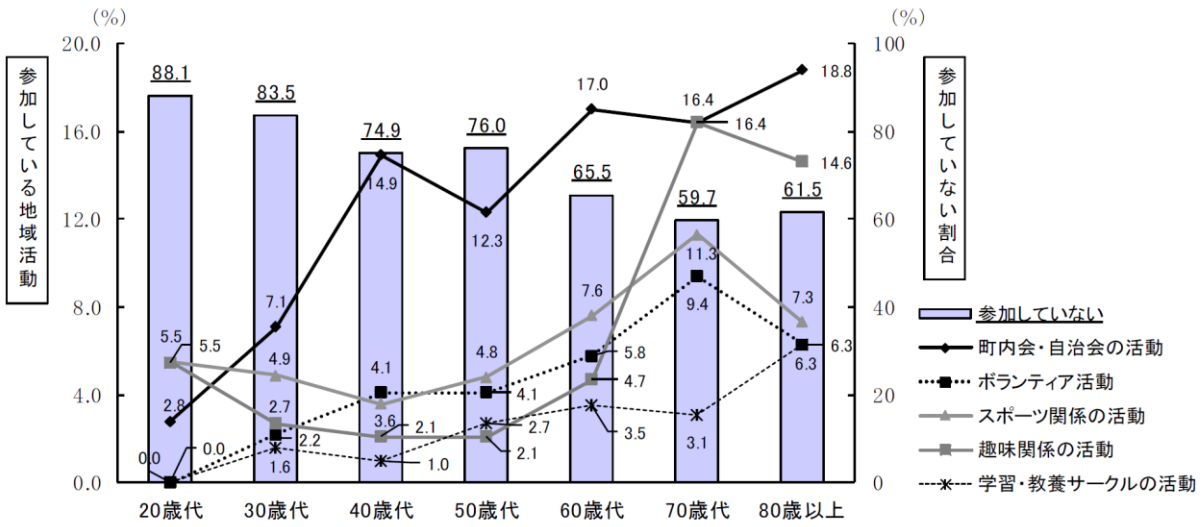


図 1-2　【年代別】参加している地域活動

地域活動への参加状況は、「参加していない」（71.9%）が約７割で最も高くなっている。年代別にみると、「参加していない」は20歳代で約９割となっている。参加している地域の活動としては「町内会・自治会の活動」が60歳代以上で高くなっている。「趣味関係の活動」は70歳代以上で高くなり、70歳代で最も高く16.4%となっている。

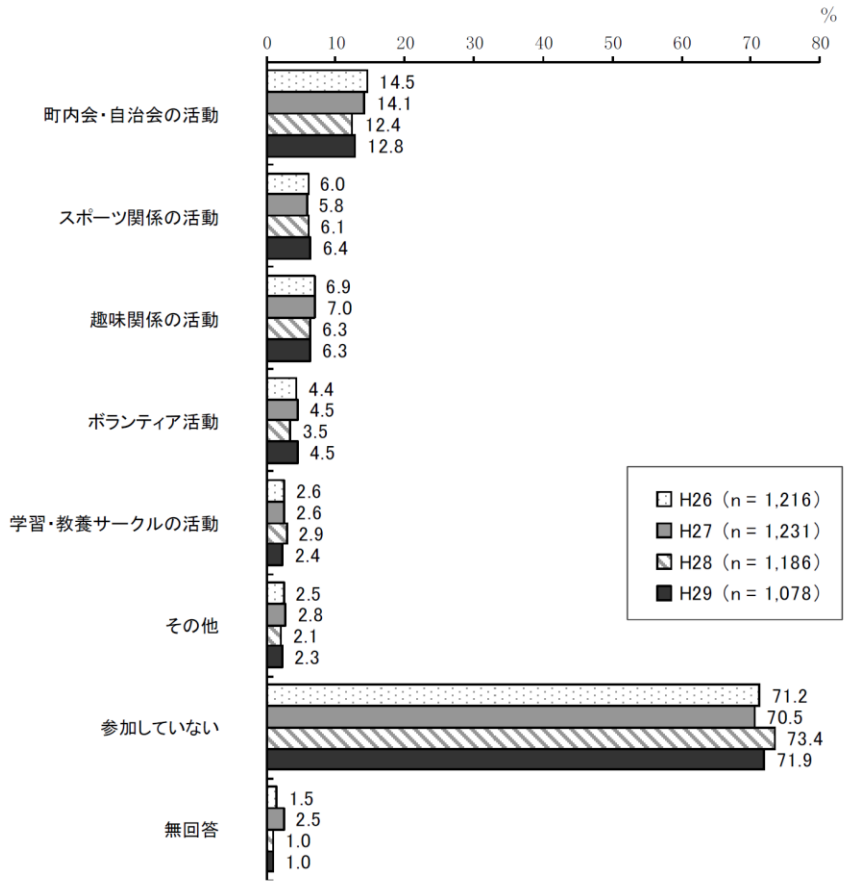
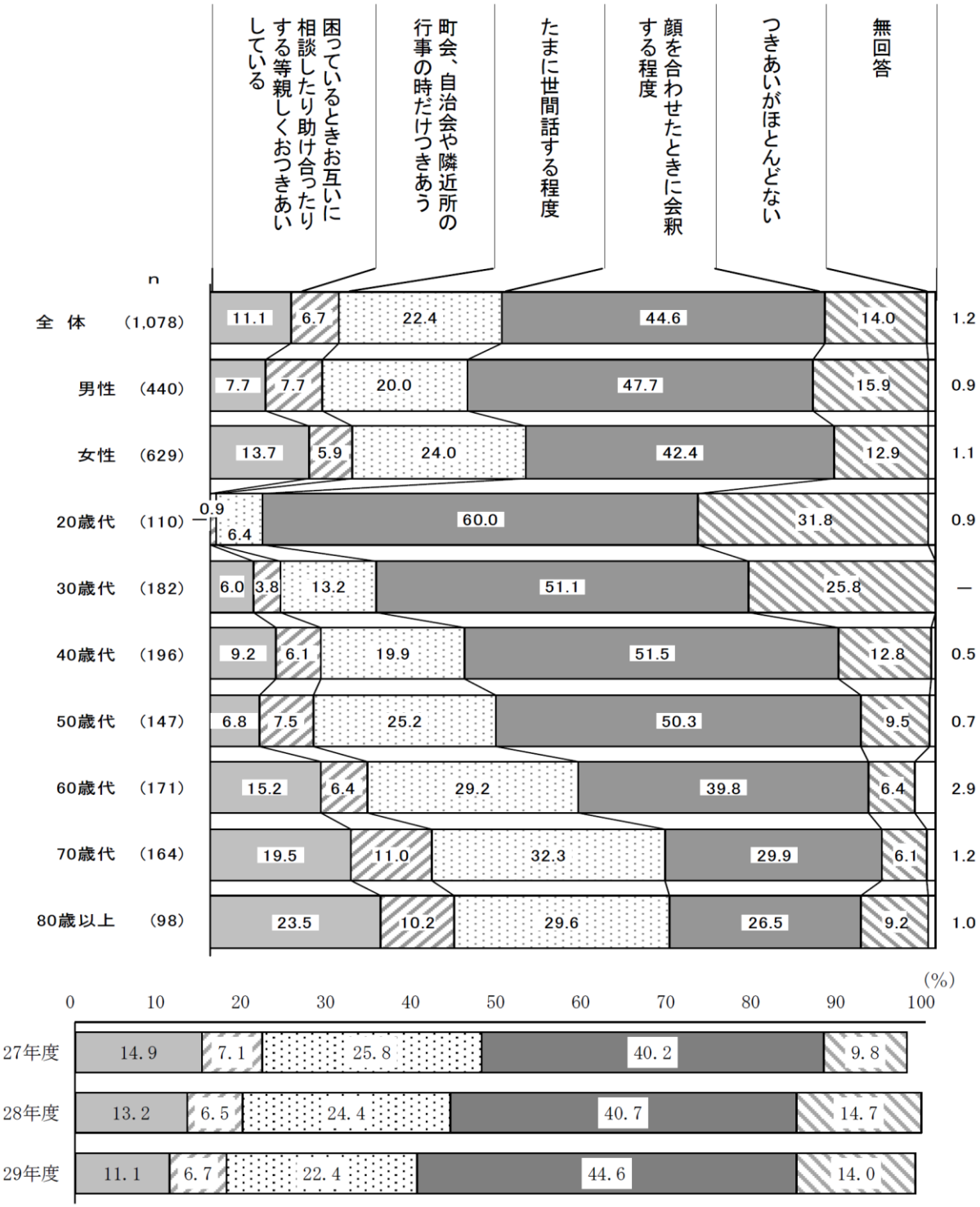


図 1-3　【経年比較】参加している地域活動

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

② 近所とのつきあい



出典：平成 29 年度（2017 年度）健康福祉に関する意識調査

③ 近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

◆近隣同士の見守り・支えあい活動は「必要だと思う」が７割台前半

問 3. あなたは、地域で生活していくうえで近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。（○は１つ）

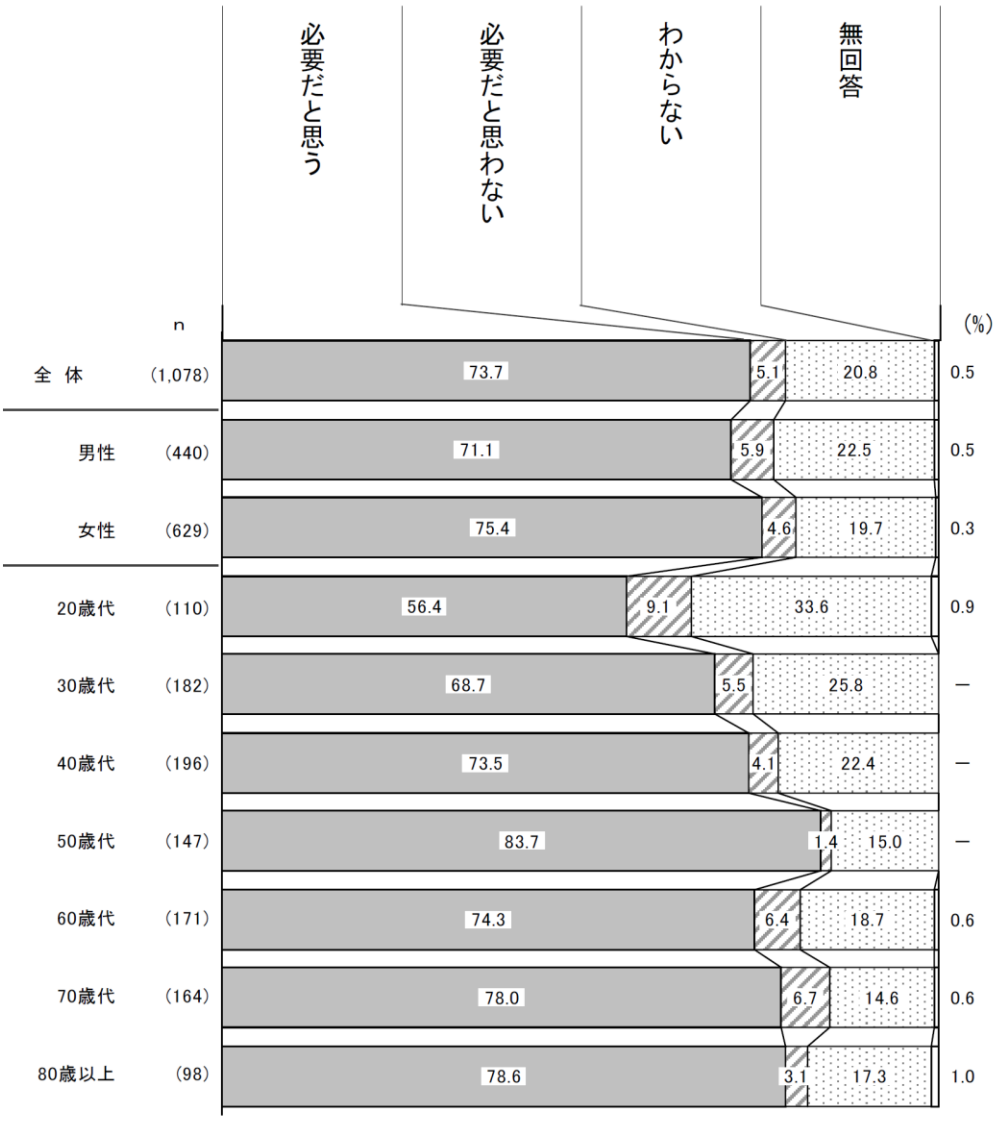


図 1-8 【性・年代別】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

近隣同士の見守り・支えあい活動は、「必要だと思う」が 73.7%で最も高くなっている。年代別にみると、20 歳代では「必要だと思う」（56.4%）が 6 割未満と他の年代に比べ低くなっている。

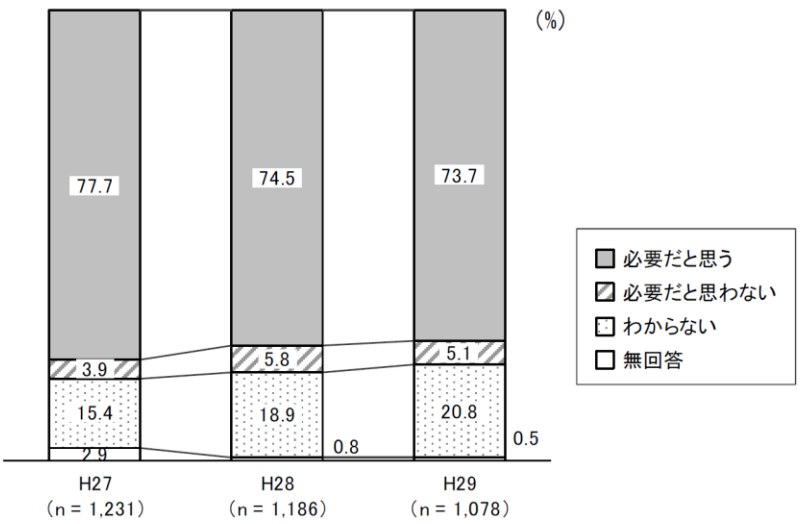


図 1-9　【経年比較】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

経年で比較すると、「必要だと思う」が年々減少している。

④ 必要だと思う見守り・支えあい活動

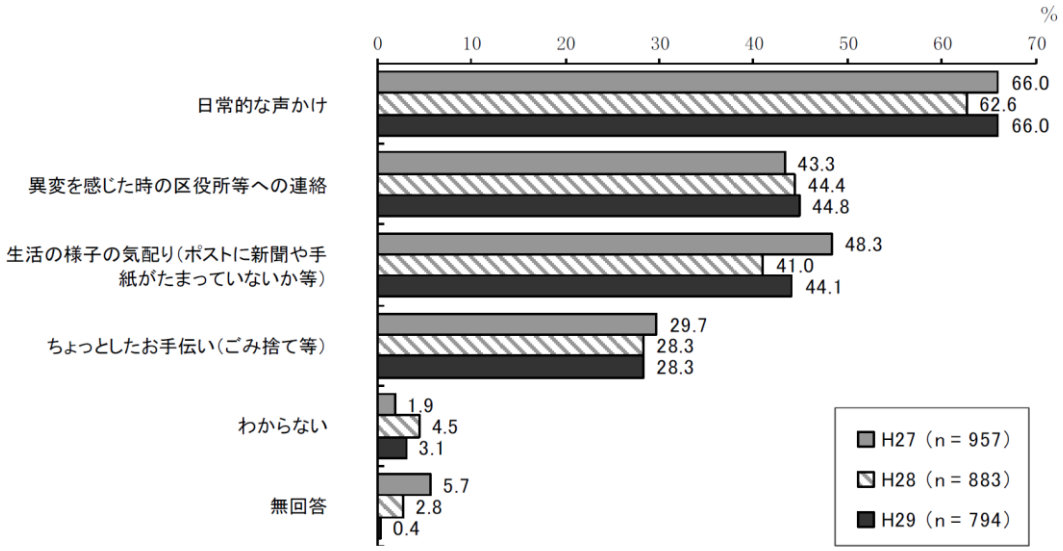


図 1-11　【経年比較】必要だと思う見守り・支えあい活動

経年で比較すると、大きな変化はみられない。

⑤　見守り・支えあい活動の実施の状況

◆見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が３割台前半

問 4.　あなたは、見守り・支えあい活動をしていますか。（○は１つ）

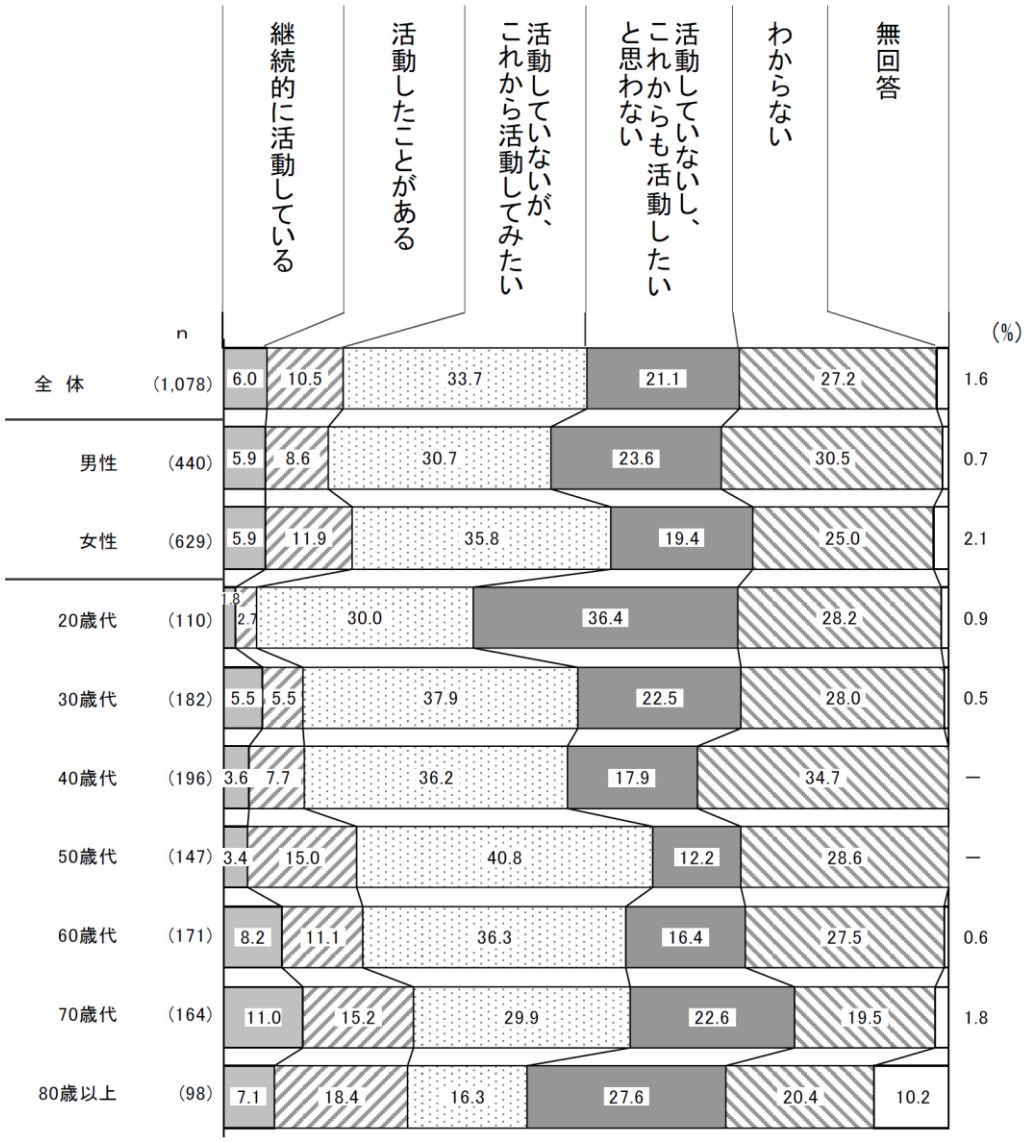
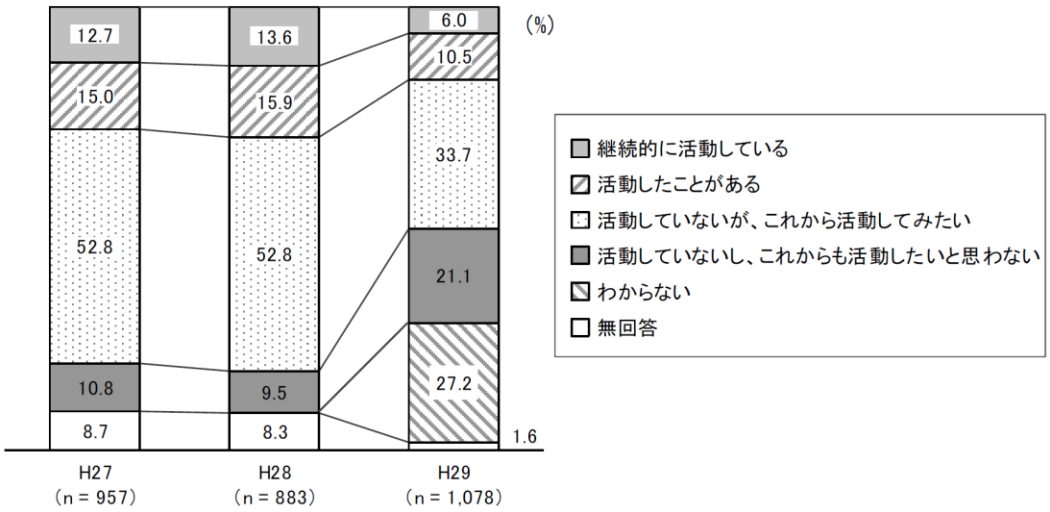


図 1-12　【性・年代別】見守り・支えあい活動の実施状況

見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないが、これから活動してみたい」(33.7%)が最も高くなっている。年代別にみると、30 歳～70 歳代では「活動していないが、これから活動してみたい」が最も高くなっている。一方、20 歳代では「活動していないし、これからも活動したいと思わない」が 36.4%で、他の年代に比べて高くなっている。



※平成 27 年度、平成 28 年度は「わからない」の選択肢はない。

図 1-13　【経年比較】見守り・支えあい活動の実施状況

経年で比較すると、平成27年度、平成28年度に比べ、「活動していないが、これから活動してみたい」が減少し、「活動していないし、これからも活動したいと思わない」が増加している。

⑥ 見守り・支えあい活動をしていない理由

◆見守り・支えあい活動をしていない理由は、「時間的な問題」が半数近い

（問4で「3. 活動していないが、これから活動してみたい」に○をつけた方に）

問 4-1. 活動をしていない理由はなんですか。（○は１つ）

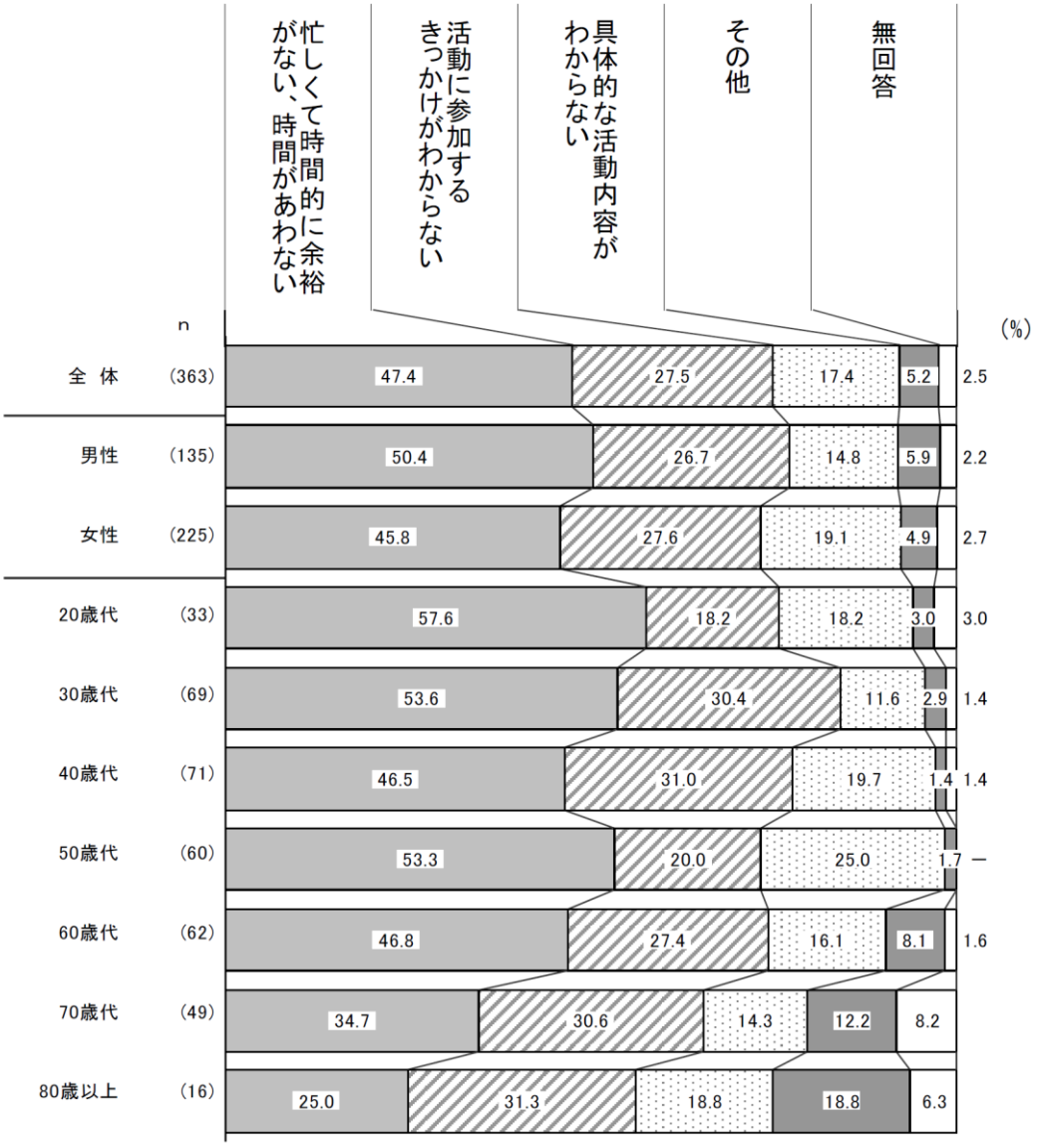


図 1-14 【性・年代別】見守り・支えあい活動をしていない理由

見守り・支えあい活動をしていない理由は、「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」（47.4%）と半数近くになっている。年代別にみると、20 歳代、30 歳代、50 歳代で、「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」の割合が５割半ばと高くなっている。

⑦　地域住民同士が交流する「場づくり」の状況

◆交流の場づくりが＜できていない＞が７割弱

問6. 地域で、地域住民同士が交流する「場づくり」ができていると思いますか。（○は１つ）

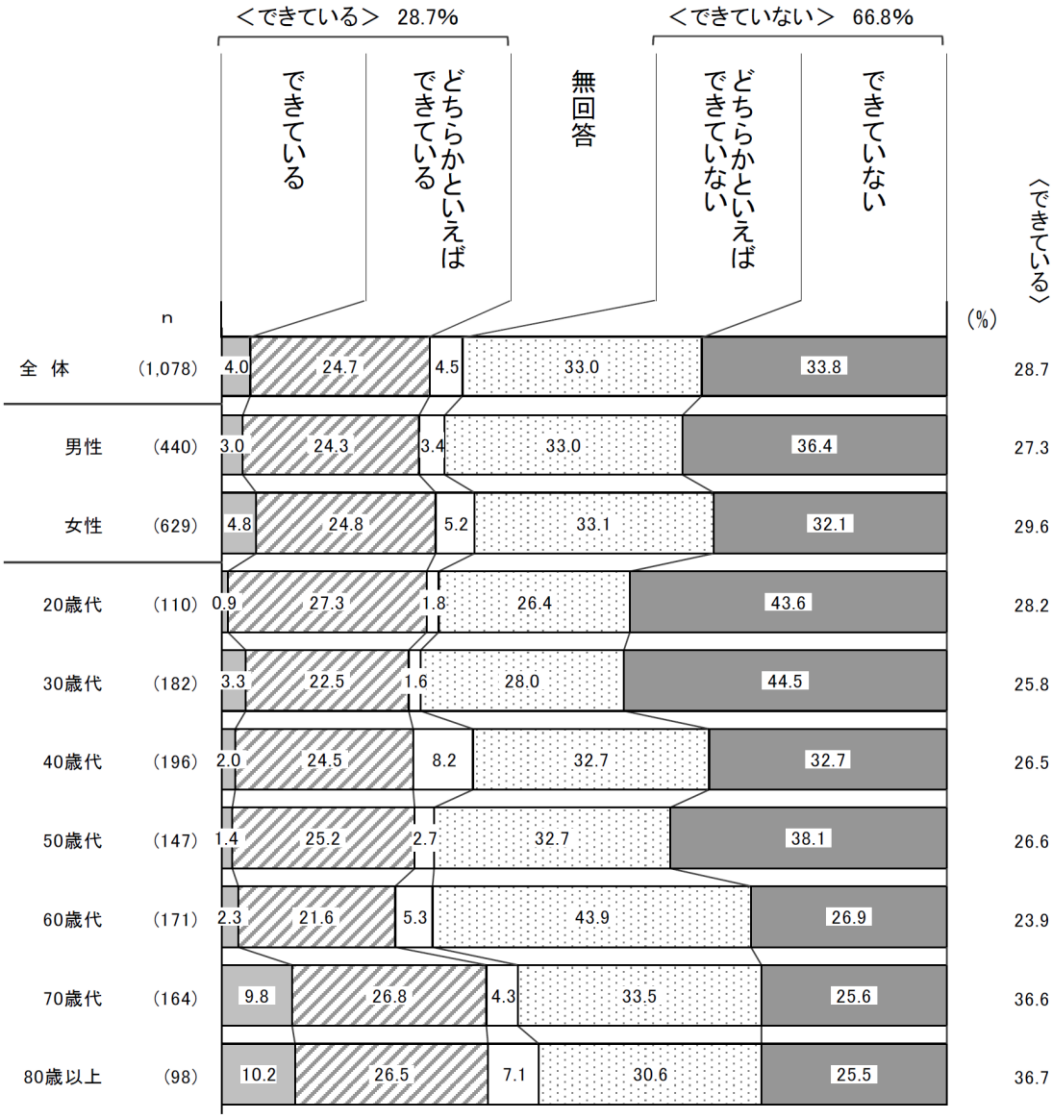


図 1-17　【性・年代別】交流の「場づくり」ができているか

地域で地域住民同士が交流する「場づくり」は、「どちらかといえばできていない」（33.0%）と「できていない」（33.8%）を合わせた＜できていない＞は約 67%と、7 割弱を占めている。年代別にみると、30 歳代では「できていない」が高くなっている。

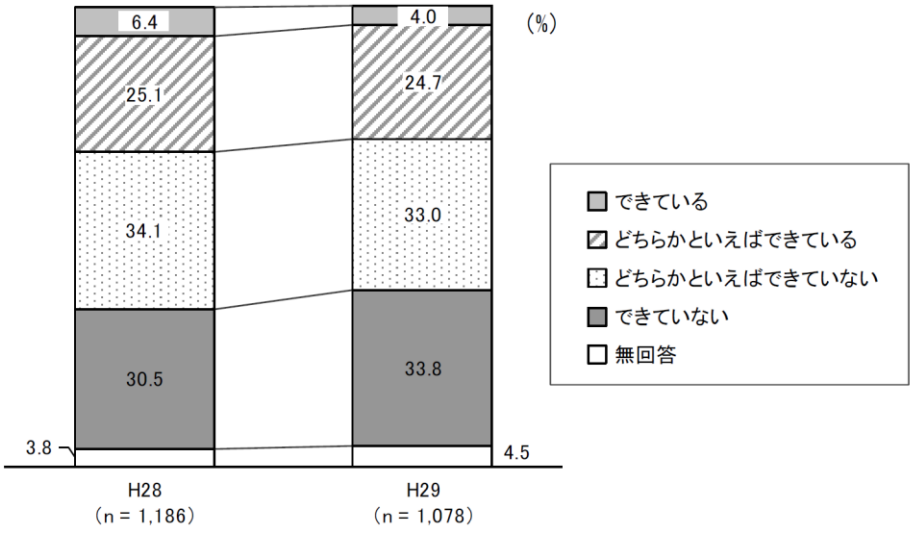


図 1-18　【経年比較】交流の「場づくり」ができているか

経年で比較すると、「できていない」が増えている。

2. 第3期いきいきプラン推進委員会委員名簿

＜任期：2018年4月1日～2020年3月31日＞

（敬称略）

	No.	氏名	選出区分	役職名
○	1	小野　武	民生児童委員協議会	中野区民生児童委員協議会会長
	2	中山　浩一	町会・自治会	宮桃町会会長
	3	岩浅　英樹	中野区(行政機関)	中野区健康福祉部福祉推進分野副参事 (2018年11月30日退任)
		長﨑　武史	中野区(行政機関)	中野区健康福祉部福祉推進分野副参事 (2018年12月1日委嘱)
	4	滝瀬　裕之	中野区(行政機関)	中野区地域支えあい推進室　副参事 (地域包括ケア推進分野)
	5	荒井　弘巳	中野区(行政機関)	南部すこやか福祉センター　副参事 (地域支援担当)
	6	浮ヶ谷　せつ子	ボランティア関係者	南中野ボランティアコーナー会長
	7	鈴木　孝雄	ボランティア関係者	まちなかサロン「白鷺」代表
	8	道林　京子	ボランティア関係者	なかの生涯学習サポーターの会会長
	9	増子　和人	社会福祉関係者	南中野地域包括支援センター所長
	10	森　京子	社会福祉関係者	中野区介護サービス事業所連絡会副会長
	11	駒野　登志夫	社会福祉法人(高齢者)	社会福祉法人武蔵野療園理事長
	12	上西　陽子	社会福祉法人(障害者)	社会福祉法人中野あいいく会理事長
	13	冨田　眞紀子	NPO法人（高齢者）	NPO法人なかの里をつむぐ会
	14	松田　和也	NPO法人（障害者）	NPO法人リトルポケット理事長
	15	大畑　きぬ代	NPO法人（子ども）	チャイルドライン中野子ども電話主宰
	16	村上　昌子	NPO法人（子ども）	NPO法人きいろいひよこ
	17	菊池　圭二	商工関係	東京商工会議所中野支部事務局長
◎	18	宮城　孝	学識経験者	法政大学現代福祉学部 福祉コミュニティ学科教授
○	19	加山　弾	学識経験者	東洋大学社会学部社会福祉学科教授
	20	森川　洋	学識経験者	帝京平成大学現代ライフ学部 人間文化学科講師

◎委員長　○副委員長

３．いきいきプラン第２期実施計画　作業委員会名簿

＜任期：２０１８年４月１日～２０２０年３月３１日＞

いきいきプラン推進委員会委員

＜敬称略＞

	No.	氏名	選出区分	役職名
◎	1	加山　弾	学識経験者	東洋大学社会学部社会福祉学科教授
	2	道林　京子	ボランティア関係者	なかの生涯学習サポーターの会会長
	3	上西　陽子	社会福祉法人(障害者)	社会福祉法人中野あいいく会理事長
	4	森川　洋	学識経験者	帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科講師
	5	高橋惠美子	NPO法人(若年性認知症)	ＮＰＯ法人若年認知症交流会小さな旅人たちの会理事長
	6	大西　桃子	子ども関係	中野よもぎ塾代表
	7	内海　和明	社協関係者	社会貢献型後見人
	8	芹田　慶三	区民活動センター	桃園区民活動センター運営委員会事務局長
	9	酒井　兼重	ボランティア関係者	中野傾聴ボランティア「きくぞう」
	10	池内　明日香	行政	地域包括ケア推進分野地域包括ケア推進担当係長

◎委員長

４．いきいきプラン（第３次中野区民地域福祉活動計画）第２期実施計画策定の経緯

①いきいきプラン推進委員会の開催について

開催日時	検討内容
第１回 2018（平成 30）年 5 月 25 日（金）	１．いきいきプラン推進委員会の役割について （１）いきいきプラン～第３次中野区民地域福祉活動計画～とは （２）地域協議会について ２．正副委員長の互選 ３．中野区の取り組み （１）中野区健康福祉総合推進計画２０１８ （２）中野区地域包括ケアシステム推進プラン ３．協議事項 （１）第１期実施計画の評価と残された課題について （２）作業委員会の設置とヒアリングの実施について （３）地域協議会について　地域における公益的な取り組み
第２回 2018（平成 30）年 11 月 2 日（金）	１．協議事項 （１）第２期実施計画素案について ２．第５回なかの地域福祉推進フォーラムについて ３．次回の日程及び今後のスケジュールについて
第３回 2019（平成 31）年 1 月 29 日（火）	１．協議事項 （１）第２期実施計画（案）について ①第２期実施計画素案の意見集約について ②第２期実施計画(案)の検討 ２．パブリックコメントの実施について ３．次回の日程及び今後のスケジュールについて
第４回 2019（平成 31）年 3 月 11 日（月）	１．協議事項 （１）パブリックコメントの結果について （２）第２期実施計画（最終案）について （３）第２期実施計画実現に向けたプロセス（案） ２．次回の日程及び今後のスケジュールについて

②作業委員会の開催

開催日時	検討内容
第１回 2018（平成 30）年 6 月 25 日（月）	１．作業委員会の役割について ２．自己紹介 ３．第２期実施計画の方向性について ４．ヒアリングの実施について
第２回 2018（平成 30）年 10 月 2 日（火）	１．ヒアリングの実施報告及びヒアリングから得られた課題 ２．グループワーク ３．まとめ

第３回 2018（平成 30）年 10 月 2 日（火）	１．第２期実施計画素案について（グループワーク） （１）5 年後のあるべき姿と重点目標について （２）重点目標ごとの取り組みについて （３）まとめ ２．第５回なかの地域福祉推進フォーラム
第４回 2018（平成 30）年 11 月 26 日（月）	１．第２期実施計画について （１）11/2　いきいきプラン推進委員会の報告 （２）第 2 期実施計画案の策定について ①意見集約の状況報告 ②第 2 期実施計画案の作成方法について ２．第５回なかの地域福祉推進フォーラムについて
第５回 2019（平成 31）年 1 月 16 日（水）	１．第５回なかの地域福祉推進フォーラム及び素案の意見集約の報告 ２．第 2 期実施計画案について

②第 2 期実施計画素案の意見集約

意見集約期間	2018（平成 30）年 11 月 15 日～12 月 28 日
意見集約方法	①中野社協ホームページへの掲載 ②ハピネスなかの 12 月号に素案への意見集約の記事の掲載 ③中野区町会連合会、民生児童委員協議会での説明 ④地域での会合や関係機関の会合での説明
寄せられたアンケート回答数	19 件（電子メール 5 件、窓口 6 件、FAX 8 件）
第５回なかの地域福祉推進フォーラム参加者との意見交換	参加者数　131 名 （一般 63 名、学生・大学院生 36 名、講師・作業委員・職員等 32 名）

③パブリックコメントの実施

意見募集期間	2019（平成 31）年 2 月 5 日～2 月 28 日
公表した内容	「第３次中野区民地域福祉活動計画　案」
意見集約方法	中野社協ホームページへの掲載 中野区町会連合会、民生児童委員協議会での説明 地域での会合や関係機関の会合での説明
意見提出者	◆中野区民　◆中野区在勤・在学者 ◆区内団体でボランティア活動、NPO での活動をしている者（区外在住者も含む）
意見提出方法別件数	0 件
提出された意見により修正した件数	0 件

５．第５回なかの地域福祉推進フォーラム　報告

日時　2018(平成30)年12月1日(土)14時～17時　場所　帝京平成大学　中野キャンパス
参加者　131名（一般63名、学生・大学院生36名、講師・作業委員・職員等32名）
テーマ　「これからの５年間の中野をみんなで考える」

（１）基調講演「住民が主役の地域づくり～いきいきプランで描く、これからの５年間の福祉～」

講師　東洋大学社会学部社会福祉学科　教授加山弾氏

＜基調講演のポイント＞

- ２０１９年～２０２３年の５年間で中野はどうなるのか。
  震災は起きてない？　２０２５年問題は目の前　単身世帯は増加する
- いろいろな人が多様なスタイルで参加できる地域を目指して
  地域では無関心層が多数派。無関心層が少しでも関心を持ってもらい、参加できるまちをつくることが必要。
- ゆるやかな見守りが大切。何気ないちょっとした時の見守りが実は重要。そのゆるやかな見守りは、見守りの役割があるとは思っていない人たちが担うことが多い。
- 福祉だけでなく他分野との協力が必要。いかに横でつながっていくかが重要となる。
- 第２期実施計画素案では、重点目標を２つにした。
  重点目標①は「参加するほど楽しくなるまち NAKANO」⇒一人ひとりが参加することにより我が事として感じること。重点目標②は「多ジャンル共生でつくるまち NAKANO」⇒様々な団体やグループ等が分野を越えて参加し共生すること。この２つの重点目標をつなぎ、社会的孤立を生まない地域づくりを目指している。

（２）いきいきプラン第２期実施計画素案の説明

第２期実施計画で目指す方向性　～ME を WE にする～（作業委員より）

素案を策定するにあたり、ヒアリング調査を実施。活動団体やサービスを利用している当事者の声を聞いた。その中から、様々な課題やヒントを得ることができた。地域では周りに助けを求めている人がいる（孤独な ME)。その声を聞き、まずは近所や身近な人と協力し、自分のできるところから何かを始めることでつながりができている。いきいきプラン第２期実施計画では、一人ひとりが参加しみんなで(WE)一緒に取り組むことを目指している。

（３）グループディスカッション

参加者同士で話し合い、いきいきプラン第２期実施計画素案をもとに、これから取り組みたい事や印象に残った取り組みについて話し合いました。それぞれ画用紙に記入し、発表しました。

「積極的に地域のイベントに参加します(学生)」
「一人暮らしをしていて隣に住んでいる人の顔も知らないので、まずは挨拶してみようと思いました(学生)」
「つなぐ役割に取り組みます（介護支援専門員として活動)」
「向こう三軒両隣。一人の１００歩より１００人の１歩に取り組みます（サロン活動及び町会活動を実践中)」
「高齢者の事だけでなく、子ども食堂や学習支援など横のつながりをより深く、町会をはじめ拡げていきたい。顔のみえる地域にしていきたい（施設職員)」など、一人ひとりが意思表示を行いました。

みんなで一緒に中野のまちを考え
行動することを目指します！

アンケート結果　１０８名（講師・職員を除く）中、回答数７１名（回収率 ６５．７%）

【性別】男性：３６名　女性：３２名　無回答：３名
【年代】１０代：１名　　２０代：２７名　　３０代：５名　　４０代：５名
　　５０代：６名　　６０代：１２名　　７０代：１１名　８０代：２名　無回答：２名
【職業】勤労者：１５名　学生：３０名　主婦：７名　無職：９名　退職:５名
　　その他 ：　５名（区議・個人事業主・司法書士・自営業等）
【満足度　平均】　基調講演　８８％　　グループディスカッション　８６％
【主な意見】

＜基調講演＞

- 「参加するほど楽しくなる」「多ジャンル共生」素敵な言葉だと思います。是非実現させたい。
- もう少し話を聞きたかった。
- 地域福祉推進についてより詳しく知ることが出来た。
- 発想を広くして仲間を増やしていく。これから取り組んでいく課題が見えてきた。
- 実習に行って自分が見ていた問題以上のものが多くあることを、現実に突きつけられているということが分かった。
- 中途障害になって 10 数年。4、5 年前より電動車いすにより、外出するようになったが、利用してみて道の狭さ、悪さに驚くばかり。老人、障害者が安心して動けるように環境整備を整えてほしい。

＜グループディスカッション＞

- テーマが絞りきれなかったのが残念である。
- 学生が中心だったが、様々な方（留学生・ボランティア・地域の人・世代の違う人）の意見を聞くことができ良かった。
- 自分自身の意見も言うことができ、他者の意見を十分に共有することができて、学びと共に新たな考えを持つことができた。
- 色々なアイディアが出され、実践できそうな事がたくさんあった。
- 時間の都合で話し合いが短かった。
- 第 2 期実施計画素案についての討議がほしかった。

＜いきいきプラン第２期実施計画素案について感想や意見＞

- 全体的に良いと思うが実施するのが難しい面もある。具体的な事案、事例があるとよい。計画倒れしないように要望する。
- ＭＥをＷＥにするというのが印象に残った。孤立化が進んでいることが目に見えて分かるようになっている。ＭＥをＷＥ、地域の人と助け合って楽しいまちづくりに協力したい。
- 地域で共存していくことは言葉以上に難しいと感じた。
- いざという時のために地域との関わりを大切にしていこうと素案を見て思った。
- とてもよく出来ていると思うが、インターネット、SNS の活用がどこまで高齢者やネット環境のない情報弱者に届くか疑問である。
- 地震対策は必ず入れてほしい。サロンやサークルで普段から訓練ができるようにしたい。
- 人と人をつなげる(支援する)コーディネートの重要性が増々重要になってきていると感じている。

６．用語説明

まちなかサロン（Ｐ５）

区民の自宅や区民活動センター等を会場に、区民同士が気軽に集える“憩いの場”として中野社協が支援しながら一緒に立ち上げたサロン。子育て中のお母さん方からシニアの世代などが集い交流できるきっかけづくりを行っています。サロンの運営は自宅などを開放してくださる区民、ボランティアスタッフを中心に、参加者ご本人、町会・自治会や民生・児童委員の皆さんの協力とともに実施

すこやか福祉センター圏域情報交換会（Ｐ５）

子育て、保健・福祉、支えあいの地域拠点として、相談・支援のほか各種事業や福祉サービスの受付を行う機関として、中野区内に４か所、中野区すこやか福祉センターが設置されています。その４か所の中野区すこやか福祉センターのエリアごとに行われる情報交換会を実施。情報交換会の対象は、地域の居場所の運営をしている団体となっている

地域における公益的な取組み（Ｐ６）

社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確化するため、地域のニーズに対応した取り組みを行うこと

なかの地域福祉推進フォーラム（Ｐ６）

地域で活動している団体や地域活動等に関心のある区民とともに、中野の地域課題について考える場として実施

協働事業プロジェクト（Ｐ６）

区内で施設運営をしている社会福祉法人が集まり、中野の地域課題に協力して取り組むためのプロジェクト

高齢者困りごと支援事業（Ｐ７）

区内在住の概ね６５歳以上の高齢者の一人暮らしや高齢者世帯を対象に、３０分以内で終了する電球交換や荷物の移動などの簡易な支援を行う制度

なかの災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ運営スタッフ養成講座（Ｐ７）

災害発生時に、災害支援のボランティアが活動するためのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ（災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ）の運営スタッフを養成する講座

アウトリーチ（Ｐ８）

援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して、積極的に働きかけて支援の実現を目指すソーシャルワークの手法のひとつ

あんしんサポート（Ｐ８）

一人暮しや身寄りのない高齢者の方々の、これからを支えるサービス。日常的な見守りから入院時の対応、亡くなった後の手続きなどを有料で実施。

地域福祉権利擁護事業（Ｐ８）

判断能力が不十分な高齢者、精神障害者、知的障害者の福祉サービスの利用援助と日常的な金銭管理の支援を行う制度

アウトリーチチーム（Ｐ８）

区民活動センター単位（１５地域）に設置された事務職および医療・福祉の専門職で構成されたチーム。地域包括ケアシステムの構築に向け、地域での取り組みを推進する他、支援を必要とする人を発見し、適切な支援に繋がるよう多職種の連携体制で対応

エンディングノート（Ｐ８）

自分に万が一のことが起こった時に備え、あらかじめ家族やまわりの人に伝えたいことを書き留めておくノートや手紙のこと

社会貢献型後見人（Ｐ８）

弁護士などの専門職や親族ではなく、社会貢献的な精神のもと、成年後見の業務を担う後見人の事。市民後見人ともよばれている

生活困窮者自立支援事業（Ｐ１２）

全国の福祉事務所設置自治体が実施主体となって、官民協働による地域の支援体制を構築し、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業その他生活困窮者の自立の促進に関し包括的な事業を実施

ＮＰＯ法人（Ｐ１３）

“Non Profit Organization”（Non Profit＝非営利、Organization＝組織）の略語。非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体や任意団体などのボランティア組織や団体で法人格を持っているもの

ＬＧＢＴ（Ｐ１４）

LGBT とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、それぞれの英語の頭文字からとったセクシャルマイノリティの総称

ＮＰＯ団体（Ｐ１４）

“Non Profit Organization”（Non Profit＝非営利、Organization＝組織）の略語。非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体や任意団体などのボランティア組織や団体

わたしたちが　いつも
いきいきと暮らすために

私は
見守り
に取り組みます。

・MEをWEにするというフレーズが印象に残りました。
・いざという時のために、地域とのつながりを大切にしていきたいです。

私は
一人ひとりの力を
どう活かせるか
一緒に考えること
に取り組みます。

私は
向う三軒両となり！
一人の100歩より 100人の一歩
に取り組みます。

大学生活のあいだお世話になった中野という町に自分の出来ることとして行きたいと思います。

私は
既存・新規の関係を問わず、
幅広い世代・職種の方々が
繋がりを持てる仕組みづくり
に取り組みます。

私は
病院(職場)を出て、地域で求められる役割をさがすこと
に取り組みます。

ゆるくつながれる
きっかけ と 場 があれば
いいと思います。
参加ではなく立寄る場

♥情報をたくさんもって
人と人をつなげる
♥顔の見える関係
SNS だけでなく
フェイス や フェイス は
やっぱり 大事
氏名

私は
MEから脱皮し
Weを広げていく!!
に取り組みます。

私は
耳に届いた地域の方の声を
関係機関に届けること
に取り組みます。

いきいきプラン（第3次中野区民地域福祉活動計画）
「第2期実施計画」

2019(平成31)年3月
編集・発行　社会福祉法人　中野区社会福祉協議会
〒164-0001　中野区中野5-68-7　スマイルなかの4階
電話5380-0751　FAX5380-0750
メールアドレス：soumu@nakanoshakyo.com
http://www.nakanoshakyo.com